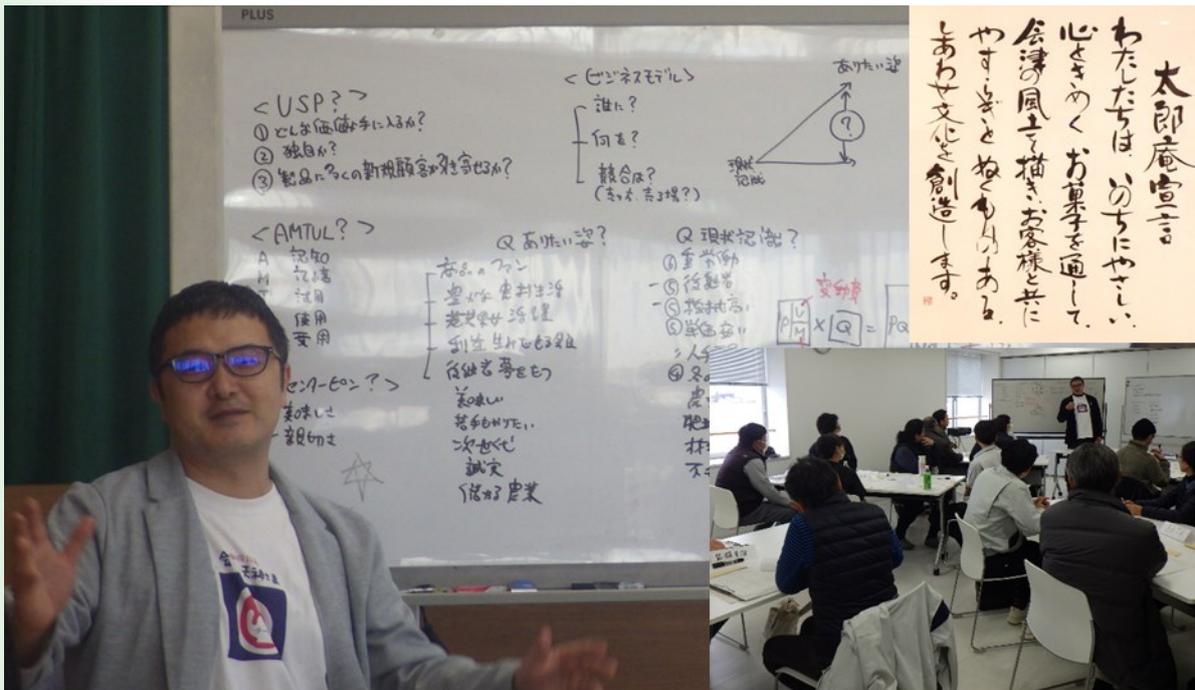


第190号

会津坂下農業普及所だより

みどりのこだま

異業種経営者の考えを学ぶ研修会を開催！



(株) 太郎庵の目黒社長による研修会の様子

農業所得の向上のためには、「消費者や実需者のニーズに応じた農産物（商品）の高品質化や高付加価値化のための6次化等に努めながら、それをどのように販売するのか？」が一層重要になっています。

そのため、今年度から福島県普及指導協力委員*になって頂いた、株式会社 太郎庵の目黒徳幸 代表取締役を講師として、8月と12月に加工グループや青年クラブ等の会員を対象に農産物・加工品の販売力向上研修会を開催しました。本研修会は、参加者も意見を出し合うワークショップ形式で行われました。

1回目では参加者の経営には「現状」と「ありたい姿」に差があることが明確にされ、2回目ではそこを埋めていくために必要なことは何かをテーマとして検討しました。

講師からは、会社経営や商品販売のノウハウ的な話もありましたが、「困難な時には、必ず太郎庵宣言（会社の理念）に立ち返って取り組む」、「AIが正解らしい答えを導いてくれる時代になった。だからこそ相手に自分の気持ちや熱量を伝えることがより大切。それはAIに出来ないこと」などの経験に裏打ちされた示唆に富む話がありました。

参加者へ日頃の農業経営に取り組む姿勢や、考え方について気づきを与えてくれる内容となりました。当普及所では、これからも加工や流通、販売等の研修会を企画していきますので、ぜひ参加してください。

*専門的な立場で普及活動について指導助言を行う。知事が任命する。

(経営支援課長 岩淵)

水田農業高収益化への取組

当普及所では高収益作物の作付けを推進しております。今回は高収益作物として「サツマイモ」の取組みを紹介します！

令和5年度サツマイモの「グリーンな栽培体系」の検討会を開催

今年度、当普及所では、国の「みどりの食料システム戦略推進交付金（グリーンな栽培体系への転換サポート）」を活用し、サツマイモの実証試験を行いました。

この実証では、環境負荷軽減技術として生分解性マルチの活用と、省力化技術としてジャガイモ用収穫機の代替利用を組み合わせた「グリーンな栽培体系」を検討しました。

令和5年12月21日に実績検討会を開催し、実証ほの成績を報告した後、各技術の課題や対策について生産者や関係機関と意見交換を実施しました。また、農林水産省産学連携支援コーディネーターの小巻克巳先生からは、サツマイモの導入に向けた技術的・経営的な御助言をいただきました。

当普及所では次年度も実証試験を継続し、



実績検討会の様子

会津坂下町におけるサツマイモの「グリーンな栽培体系」の確立に取り組む予定です。

(副主査 星野)

両沼女性ネットでサツマイモ加工に取り組みました

両沼女性ネットは、両沼地域に住む女性農業者や、農業に関わる女性が集まり、講習会や先進地調査などの活動に取り組んでいる団体です。今年度は、サツマイモの加工に取り組みました。

令和5年12月7日に茨城県にある干し芋加工施設の視察研修を実施しました。実際に作業場などを視察しながら、糖度が高く、外観・食感が良い、高品質な干し芋の加工技術を学びました。

また、12月18日には新商品の試作検討会を実施し、福島県産のサツマイモを使用した干し芋とスイートポテトの試作を行いました。視察研修で学んだ技術を活かした試作品は、会員にとっても好評でした。取組みをとおして会員の農産物加工・販売への意欲も向上し、加工に取り組む会員の増加が見込まれます。

両沼女性ネットでは会員を募集中です。これからも明るく元気に様々な活動へ取り組んでいきます。活動に興味のある方は当普及所まで御連絡ください！

(技師 佐々木)



試作検討会の様子



干し芋試作品



スイートポテト試作品

「第44回JA全会津肉用牛共進会」が開催されました！



名誉賞を獲得した佐藤真也さんと「そふいあ」号



審査風景

銘柄会津牛振興協議会の主催により、令和5年8月25日に「第44回JA全会津肉用牛共進会」が喜多方市のJA会津よつば駒形肉牛集畜所にて開催されました。共進会は和牛の育成管理技術の向上と牛群の改良促進を目的に開催されます。当日は日頃から手入れの行き届いた選りすぐりの牛19頭が会津地域各地より出品され、出品牛は月齢や繁殖成績などの条件により5つの区分ごとに審査されました。全国和牛登録協会が定めた基準による厳正な審査により、各区から優等賞が選出され、その中から見事、会津坂下町の佐藤真也さんの「そふいあ」号が名誉賞を獲得しました。

共進会は生産者や畜産関係職員が一堂に会することで、日頃の情報交換や生産意欲の向上を図るための場でもあります。当普及所としましても、今後とも会津地域の肉用牛の改良が更に促進されるように、関係機関と連携して支援してまいります。(技師 岡)

未来に向けた地域計画づくりを進めましょう

昨年から、「地域計画策定に向けた集落説明会」が皆様の集落で開催されていると思います。「地域計画」とは、地域の将来の農地利用の姿を明確化した「設計図」です。概ね10年後の農地の姿について、地域の担い手、後継者、農地所有者が話し合いながら作っていきます。

「地域計画」を作る意義は「農地を次世代にどう引き継ぐか」を明確にし、行政による支援の焦点を定めることです。担い手や後継者、入り作の方など様々ある中で「誰に」引き継ぎ、それを集積・集約化して「どのように」引き継いでいくのか、将来の農地の姿を「地域計画」という形で明確化します。その「地域計画」に基づいて農業経営の基盤強化、新規就農者や認定農業者への経営支援といった行政支援へとつなげていきます。

実効力のある行政支援の活用に向けた第



地域計画説明会の様子

一歩として、皆様でつくる「地域計画」が必要です。次世代の顔を思い描きながら作成に向けた話し合いをお願いします。

(主任主査 棚橋)

今後注目の会津坂下町次世代農業者会を紹介します

令和5年3月に発足した「会津坂下町次世代農業者会」が、活発な活動を展開しています。

本会は、会津坂下町の概ね50歳未満の農業者（現時点で28名）で構成されており、会員の更なる技術研鑽や、町の農政推進における意見集約等を目的としています。

初年度の活動として、11月29日に、新潟県にある中日本農業研究センター上越拠点を訪れ、近年話題の高温耐性水稻品種「にじのきらめき」について研修しました。品種特性や栽培上の注意点について、積極的に質問されました。

また、11月24日には、「Jクレジット制度」を活用した「水田の中干し期間延長」について、会の代表2名が事業者と意見交換を実施しました。環境にやさしい農業を軸とした農業者の所得向上や地域の活性化について、活発に議論され



中日本農研上越拠点での研修会の様子

ました。

これからの管内の農業を牽引する「会津坂下町次世代農業者会」の活動に御期待ください！

(技師 石川)

お知らせ

◆みどり認定について

みどり認定とは、「みどりの食料システム戦略」の目標達成のため、環境負荷低減事業活動に取り組む事業者を県が認定する制度です。詳細は右側のQRコードを読み込むか、インターネットで「福島県 みどり認定」と検索してホームページより御確認ください。



◆農薬適正使用 ～農薬使用前にもう一度ラベルを確認しましょう！～

最近では、令和5年12月に県内で残留農薬基準値を超過する事案が発生しました。このような事案は、本県や生産地の農産物への信頼を失うことから、改めて農薬の適正使用をお願いします。

- (1) 農薬を使用する際は、商品ラベル等を十分確認し、農薬使用基準を遵守しましょう。剤型（水和剤、乳剤、粒剤ほか）によって適用作物等使用基準が異なることがあるので、注意してください。
- (2) 農薬散布作業前に器具が十分に洗浄されていることを確認し、作業後は使用した器具の洗浄を徹底しましょう。
- (3) 農薬使用後は、速やかに農薬の使用実績を記帳しましょう。

◆収入保険に加入しましょう！

令和5年は、霜による果樹の被害、高温干ばつによる水稻の等級低下などで農業経営が一段と苦しい年となりました。農業所得の低下を補償するために収入保険があります。

「加入に必要な青色申告実績が1年に短縮」、「新補償タイプの新設」、「気象災害特例の新設」など見直しがされています。詳細は農業共済組合に確認いただき、ぜひ加入を御検討ください。

◆火傷病（かしょうびょう）に注意しましょう！

火傷病は、ナシやリンゴなどに感染する細菌による病気です。有効な防除方法はなく、感染すると樹全体が枯死します。

日本では未発生ですが、中国等で多く発生しており侵入を強く警戒しています。花粉でも感染しますので、中国産花粉は使用しないようにしましょう！中国産花粉を持っている場合は当普及所まで御連絡ください。

内容に関するお問い合わせ、農業に関する相談はこちらへ

福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所

(住所) 河沼郡会津坂下町大字見明字南原881 (電話) 0242-83-2112

金山普及所

(住所) 大沼郡金山町大字川口字上町656-1 (電話) 0241-54-2801